

みつくら

平成31年 2月15日 第284号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

エコークずまるの協力で大瀬川の歌を収録

1月11日の夜にエコークずまるの定例練習会に合わせて板垣寛さんが作詩した歌、4曲を歌って頂き録音した。当日は会員11名と指導者の白藤淳一さんの協力で録音が出来た。これまでは各種のイベントでは歌われていたが改めて音源として残したのは初めて。録音した歌は「大瀬川讃歌」「やまなし讃歌」「タロシ滝讃歌」「葛丸讃歌」の4曲で、まずは、ボイスレコーダーにデジタル録音してから、カセットテープにダビングした。録音中は館内の暖房機の音が入るので温度を下げ、寒いところでの録音となった。この録音は、CDにコピーして資料保存を考えている。

久しぶりに地元会場で干支対象者を祝う会・新年会

大瀬川中央長寿会(菅原靖夫会長)は1月25日に振興センターで新年会を開催した。昨年までは、近くの温泉で開催していたが今回は近くでやろうと決まり、23名が参加して賑やかに行なわれた。今年の干支の対象者は板垣ミヨ子さん(森子竈)、熊谷すい子さん(旭田)、板垣幸夫さん(今坂竈)の3名で板垣福子さん手造りの記念品が贈られ、杯を交わしながら日頃の様子を語り合った。3時ごろからビンゴゲームをしたが、総務の幸夫さんが100円ショップでゲーム用品を探して来た。恐るべし日本の100円ショップ。これでビンゴゲームが出来る物が揃った。会長がビンゴの番号を引きビンゴになった人はまた抽選番号を書いた紙を開いて初めて賞品が手に入る仕組みになっている。賞品は5番、10番、15番が大きな袋で中身はパイナップル。20番はバナナ一房でずっしりとした重さであった。非常に盛り上がったビンゴ大会であった。このビンゴ大会で菅原得之さんと奥さんの幸子さんにパイナップルが当たり、暫く食卓にはパイナップルが乗ったことは言うまでも無い。

たろし滝小特集

◎今年も、たろし滝幟旗立てる
 1月20日は、大瀬川の風物詩となっている「たろし滝測定会」に向けて、会員約20名が集合し、それぞれ担当場所に「たろし滝へようこそ」の幟旗を立てた。この幟旗は平成22年・26年に大瀬川活性化会議の助成金で購入しているが、風雪で約1ヶ月の設置でもポールや旗が壊れ本数が減っており、リニューアルの時期ではと声があった。
 ◎たろし滝仮橋設置
 今年も、花巻市の予算でたろし滝測定を含めた仮橋を1月23日から3月中旬まで設置して頂いた。ただ、今後葛丸ダムからの越流等が見込まれた場合は、早めの撤去も考えられる。
 ◎たろし滝測定保存会の総会開催
 去る1月27日大瀬川振興センターで大瀬川たろし滝測定保存会(板垣寛会長)の総会が開催された。開会に続き板垣会長より「今年は、平成最後であり、当測定ま45年目。これも、花巻市を含め多くの方々のご協力の賜物と感じている。今後も末永く続けて日本気候の資料の一部として欲しい。」と挨拶があった。
 議長に菅原新一郎さんを選出、平成30年の報告と決算、平成31年の計画と予算が原案通り可決した。また、お賽銭箱が老朽化のため被害にあったので、菅原正義理事に制作を依頼して新しくした事と会員数は153名との報告もあった。
 ◎たろし滝への雪踏みながらの道作り
 たろし滝測定前の2月2日保存会の役員を始め、明るい社会づくり運動みなみ岩手推進協議会、ルンビニー学園、青雲高校生他を含めた総勢50名が、駐車場からたろし滝までの道を足で踏み固めたり、スコップで階段状にしたり、倒木の撤去を行って、当日見学者が登りやすくするための道づくりをおこなった。今年、雪が少なく踏み固めてもすぐ崩れやすく、怪我が無ければとの作業となったが。到着すると立派なたろし滝(目測4mぐらい)があり歓声が上がった。

あとは測定を待つだけだが、節分の日に大雨が降ったりと寒暖差の多い今年。平成21年(2009)も1月15日まで積雪が無かった。測定結果は、来月号に記載予定。

大瀬川の古図面と古地図を収録

みつくら編集委員会では、1月16日に「映像で綴る大瀬川の記録」として「大瀬川の古図面と古地図」を収録した。収録に携わった方は熊谷良悦さん、熊谷善志さん、板垣公さん、菅原得之さんの4名。主な収録は天保13年の小屋敷絵図、明治7年の上野絵図、明治後期と思われる渡里絵図、大正5年(大瀬川を表している最も古い地図)に兵部省(現国土地理院)が発行した好地村地図、岩沢絵図など14点を収録した。これらを収録したことで万が一原本が紛失しても、必ずや参考資料になるとと思われる。

いつもより長持ちしたミズキ団子

1月14日に8区自治公民館(熊谷賢良館長)主催の「三世代交流会ミズキ団子作り」が振興センターで行なわれた。この日のために前日から役員は団子を付けるミズキの木や台の準備をした。この行事には例年中央長寿会が協力しており子供会からは5人が参加した。厨房では長寿会の女性陣が子供のお母さん達に団子の作り方を指導していた。小麦粉に食紅で色を付けてしとね、丸めやすい大きさにして会場に運んだ。子供達が丸めてまた茹でるといよいよミズキの木に取り付けした。糸を通した煎餅や5円玉や50円玉を吊るした。10時ごろには立派なミズキ団子が完成して記念撮影を撮り、女性陣が心をこめて作った小豆汁粉と豚汁を頂いた。参加者には小型のミズキ団子をお土産に渡した。ミズキの木は上野々家さんから小豆は畠山ノブ子さんから提供頂いた。今年はしとね方が良かったのか、26日まであまり団子が落ちずに長持ちした。

大瀬川の団員も「出初め式」

市消防団の出初め式は1月13日に大瀬川の団員も含め、市内23分団から消防団員約1200名と消防団車両114台が出動したほか、来賓や関係者が出席して行われた。花巻市文化会館での式典の後、徒歩部隊と車両部隊が当会館から上町を通り、防火祈願を行う鳥谷崎神社まで分列行進を行った。その後、大瀬川の団員が所属する第13分団の反省会は、大瀬川振興センターで55名が出席して行われ、菅原善幸市長代理から「昨年は全国的に災害の多い年でした。災害がいつ起きても防災や救助活動が行えるよう万全を尽くしていただきたい」と祝辞を述べられた。続いて、板垣幸寿第1部消防団後援会長の乾杯で安全を祈念し、懇親を深めていた。

越田堰U字溝布設が完了

葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長、会員260名)が平成29年から2ヶ年にわたって施工していた越田堰U字溝布設工事(熊谷静治さん宅北側)が1月末に完了した。2年間の総延長は約150m。この場所は、昭和50年に実施した南野原圃場整備事業で作ったコンクリート柵溝で、45年が経過して支柱部分が破損し、柵柵も崩れたための布設であった。

ミズキ団子を飾る会が行われる

7区では、1月14日「くずまるの花」や高齢者クラブ、子供会の12名が自治公民館に集い、これに児童6名が加わり、菅原正義さんに用意して頂いた大きなミズキ(横2.6m縦3.3m)に色とりどりの団子や銭棒を飾り華を咲かせた。その後、畠山勝則さん(7区自治公民館館長)の「いただきます」でお雑煮やお汁粉を三世代で美味しく頂いた。

みつくら

平成31年 2月15日 第284号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

二・二六事件と大瀬川

間もなく2月26日が訪れる。昭和11年2月26日に勃発した二・二六事件当日、東京駅に降りた大瀬川の人がある。

治郎助家の菅原善五郎で、その音声記録が残っている。その記録とは磁気テープで、治郎助家が保管して居たのを大瀬川歴史クラブでは10年前、慎重に磁気テープの音声を復元することに成功した。その磁気テープは、昭和50年にIBCラジオの終戦30周年記念放送「私の昭和史」で語っていたものだ。

志願兵であった菅原善五郎は関東軍に入営の為、事件前日の昭和11年2月25日に石鳥谷駅を立ち東京駅に向かった(兵事記録には昭和10年2月10日から兵役に従事とある。除隊後の2回目の応召かも知れない)。2月26日東京駅に降りたところ、処一帯は物々しい戒厳令が敷かれ何かと思った。関東軍の係の出迎えを受けた一行は戒厳令の中、特別車両で関東軍騎兵隊第24聯隊に配属された。次の日27日の新聞には「皇道派の影響を受けた一部青年将校ら半蔵門岡田啓介(内閣総理大臣)、鈴木貫太郎(侍従長)、斎藤實(内大臣)、高橋是清(大蔵大臣)、渡辺錠太郎(陸軍教育総監)、牧野伸顕(前内大臣)の殺害を計画、その内斎藤内大臣、高橋蔵相、渡辺教育総監を殺害した」と載った。かの歴史に残る二・二六事件であった。

歴史クラブが「妻をもてなす昼食会」

大瀬川歴史クラブでは、1月28日に新亀家で36名が参加して「妻をもてなす昼食会」を開いた。これは、大瀬川歴史探訪講座に参加している夫婦を対象に、講座が57回も続けてこれたのも奥様方の協力があったからと企画した。当日は、加藤綱男日本調理師会長の「和食に添える思いやりとおもてなし」と題した講演会と包丁式を見学した。折角の機会であったので他に「賢治作品音読会」の会員15名も同席した。

「立春の卵立て」を試みる

大瀬川活性化会議主催の第19回大瀬川ゆかり人講演会「孵卵の神秘」と第57回大瀬川歴史探訪講座「大瀬川と養鶏」は2月4日に60名が出席して開かれた。

いずれも講師は田中家の小森田敏さん。小森田さんは、(株)福島エンヤ取締役で、岩手工場(紫波町佐比内)に勤務していて、孵卵にまつわる不思議な話を聞くことが出来た。

中国の諺に「立春に卵が立つ」というのにあやかっ、参加者もいろいろな卵を机の上に立ててみた。鶏の卵、黄卵が二つの卵、ゆで卵、烏骨鶏の卵、うずらの卵、キジの卵などを実際に立ててみた。

上手な人もいるもので、うずらの卵は8名、ゆで卵は7名、烏骨鶏の卵は6名、黄身が二つの卵は5名、鶏の卵は13名の方が立てるのに成功した。

いやはや、卵は立つもんなんだなあ〜。

ゲームもあった新年交賀会

去る1月14日に7区自治公民館(畠山勝則館長)の新年交賀会は、午前中に飾り付けられた「ミズキ団子」を背にしている記念撮影から始まった。

子供達も入っての参加者は30名、宴もたけなわとなった頃、子供達が審判に加わってのダーツゲーム(酔っても安全なマジックテープ)で盛り上がった。ちなみに、1位は畠山勝敏さん、2位は菅原謙悦さん、3位は畠山久江さんで全員にも参加賞が配られ楽しい時間を過ごした。

長靴ホッケー大会入賞ならず

去る2月3日石鳥谷アイスアリーナで石鳥谷地区長靴ホッケー大会(石鳥谷体育協会主催)が開催された。大瀬川地区からは、9区の藤原誠さん(中朴田)をリーダーに総勢15名で参戦した。

この中で、新規に板垣春介・圭介さん兄弟(8区谷地)菅原涼太さん(8区札立場分家)の若手を加えて奮闘したが、各ゲームとも僅差で敗れ入賞出来なかった。来年は、若手の活躍を期待して入賞を誓った。

9区も新年交賀会を開催

玄関ロビーにミズキ団子が飾られた1月14日に9区自治公民館(高橋昭一館長)主催の新年交賀会が40名の参加で開催された。

今年も9区内に不幸があり、年の初めと御祝いは割愛となった。高橋館長の挨拶で「平成最後の交賀会です。次の年号は何かを語りながらの親睦を」とあった。テーブルには、役員奥様方の手料理が並ぶ中、菅原敬夫第一老人クラブ会長の乾杯で始まった。

今回は、高橋清志さんの息子さんの紹介もあり、9区内のコミュニケーションの場として新年の門出を祝った。

環境標語柱を6ヶ所に設置

葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長)では、昨年1月12日に啓発活動の一環として環境標語柱を6ヶ所に設置した。

場所と標語は大瀬川自生ハナシヨウブ園には「残そうよ大瀬川に この花を」、田中堤跡には「ポイ捨てを 自分の庭でも できますか」、水上沢には「めぐる水 地球の未来 つくる今」、高井沢には「大瀬川 豊かな自然を受け継ごう」、一ノ沢には「繋げよう きれいな水域 大瀬川」、二ノ沢には「汚さない みんなのふるさと 大瀬川」となっている。

歳末助け合いで大型紙芝居

第44回石鳥谷町地域歳末たすけあい芸能大会は昨年1月21日に石鳥谷生涯学習会館で午前、午後合わせて550名が演じたり鑑賞した。

大瀬川関係では、主催者である市社協石鳥谷支部副支部長の熊谷秀夫さん、音響の板垣公さんが運営に協力した。出演者では大瀬川民話クラブが大型紙芝居「猫の恩返し」を菅原敬子さんの語り、めぐりは熊谷弘子さんと高橋厚子さんが行った。また「憧れのハワイ航路」の演舞では民生児童委員の畠山義弘さんが出演していた。

この歳末たすけあい芸能大会は、演じる人も、鑑賞する人も等しく入場料を払って「歳末たすけあい」をするもので昭和50年から続けている。

事務室 お気軽にお入りください

◎みつくら11月号に記載している高橋好徳さんが栽培した無農薬・無肥料で育てた「ささしぐれ」の仲間内での試食会に参加する事ができた。

最近の米は、モチ系のかけ合わせが主流でモチリ感なのに対して、この「ささしぐれ」はサッパリ感があつた。寿司によく合うと聞いていたので、刺身をのせて食べたところ全員が美味しいと言った。来年も育てるのかを高橋さんに訪ねたところ、種籾はとっているので場所が確保できれば植えたいと話していた。

折しも、この試食会にはIターンで9区に在住している福島さんも参加。こちら、今年「亀の尾」を自宅前で無農薬・無肥料で育てるとのこと。地域にとって刺激になればと思ひ、今後も2人の方の取材を続けたいものである。

◎いつもは、9区の新交賀会の中で、藤原米光さんより紹介がある東方朔秘傳書だが、今回は小生が紹介する。

今年「つちのと、ぬ年」。正・二・三月半日、四月日、五月、六水あり、七・八月日、九・十月半日、風あり、麦よし牛馬死す、田畑とも世の中は上の九分なり。近年稀に見るほど雪のない正月、雨の節分となり今年はどうなることだろう。